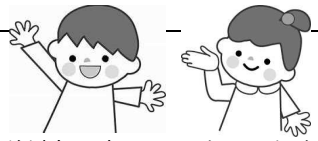
山口市立湯田小学校　家庭数配付

のびのび

平成３０年度校長室だより　第９号　　平成３１年２月５日

湯田小学校の大切な言葉 ： あしたも会おうね　温かい学校　～　学び合い　～

３０年度チャレンジ目標：湯田小ＡＢＣ



読書好きの子供を育てる

校長　伊藤　豊

学校評価アンケート結果によれば、学校や家庭で「読書する姿」を見かけることが１回目に比べて数値が減っていました。しかし、子供自身は約８４％が「本を読むことが好きだ」と答えています。この差って何でしょうか？

例えば、天候がよい日の図書室では子供の姿はまばらです。多くの子供たちは、運動場で活発に活動しています。雨の日は、教室で談笑したりカードゲームに興じたりしながら、安全に過ごしています。図書室には多少人数が増えます。学級の図書の時間といえば、どの学年の子供たちもいそいそと図書室に出かけ、司書さんの読み聞かせを楽しみ、その後は思い思いに書棚を眺め、図書室を去る時にはお気に入りの本を一冊、持参したカバンにしまっています。では、いつ読むかといえば、私が校内を見て歩く限りでは、授業と授業のちょっとした空き時間や何かの待ち時間に読んでいるようです。おそらく家庭に帰った時も、宿題の前後やお気に入りのTVが無い時に読んでいるのかもしれません。眠りにつく前のほんのひと時にページをめくることもあるでしょう。

つまり、「本を読むことが好きだ」と答えた８４％は、その現れだと考えます。もしかしたら、私たち大人は、子供が読書をしている姿を確認しないと安心できないのかもしれませんが、保護者の帰りを待っていた子供からすれば、うれしくて、話しかけたくて、わざわざその時に読書をしない気持ちもわかるような気がします。

では、子供が読書をしている姿を家庭で確認する方法はないのでしょうか？その一つの方法としてに、保護者のみなさんが、一息つかれる時にTVやスマホといったメディアを切り、ご自身が読書をされてみてはいかがでしょうか。子供はかわいいもので、保護者の方が読書を楽しむ姿を見れば、「何読みよるん？」と聞いてくるのではないでしょうか。そして、隣でいつの間にかお気に入りの本を取り出してくるかもしれません。「その本は、どんなお話かね？」とお尋ねになれば、そこから会話も弾むことでしょう。ご家庭の団欒の時間に、押し黙ってそれぞれがスマホを眺めている光景に比べて、５分でも１０分でも親子で読書を楽しむ。ちょっといいと思いませんか。

絵本に登場するドーナツが、給食に出ました。

教育の世界には、「割れ窓理論」という言葉があります。校内で割れ窓をそのまま放っておくと、次の窓が割られ、ドミノ倒しのように教育環境が荒んでいくそうです。ゴミも同じです。足元のゴミを誰もが見過ごせば、ゴミが落ちていても、落としても平気になってしまい、いつの間にかゴミだらけになってしまいます。

しかし、「親子で読書」は、その反対と言えます。読書好きの子供を育てるには、意識して環境を整えていくことが大切です。本校は、来年度１１月７・８日に中国地区学校図書館研究大会の授業公開校に指定されています。教育活動のいろいろな場面で図書資料を活用しながら、子供たちを読書好きにする、心を育て知識を増やす試みを少しずつ始めています。もちろん、子供たちを育てるには、学校だけの力では十分ではありません。ご家庭の力にも期待しているところです。「親子で読書」という取組、読書好きの子供を育てる素地づくりに是非ともご協力いただきたいと思います。

来年度の教育課程（日課表）について

保護者の皆様には、先日お知らせしたように、来年度から３年生以上で授業時数が増加します。これは、２０２０年度から完全実施される新学習指導要領による授業を実施するためです。現在も、３・４年生は「外国語活動」を年間１５時間実施しています。これにあてる時間は、総合的な学習の時間から生み出していますが、来年度から山口市では年間３５時間（毎週１時間）実施することになりますので、日課表で１時間増やす必要があります。５・６年生も年間７０時間（現在は５０時間）にする必要があります。

３年生は、現在月曜日が５時間授業ですので、そこに１時間増やすことになります。４年生以上は、毎日ぎりぎりいっぱいの時間なので、どこで増やすべきかを、市内他校や県内外の状況を確認しながら、校内で時間をかけて考えました。全国には、午前中５時間授業実施であるとか、１時間目を８時１５分から開始する等、様々な取組があるようです。そのような中、子供たちの毎日の学校生活を大きく変化させず、給食の調理時間や教職員の会議等の時間確保も考える必要がありました。その結果、お知らせしたように本校では、４年生以上は水曜日を６時間授業にして、授業時間の確保を図ることにしました。

ところで、新学習指導要領では、これまでどおり「生きる力を育む」という理念は継承しつつ、「主体的・対話的で深い学び」をキャッチフレーズにして、知識を詰め込み正しく再生する学習から、他者と一緒にお互いがもっている知恵を出して考え合いながら（協働）、課題を解決したり新たな方法を見つけ出したりする学習への転換を謳っています。本校では、数年前からこうした学習を先取りし、課題を巡って、学級で友達と考え合う学習スタイルを研究しています。

また、教科書だけではなく、タブレット端末や電子黒板、ホワイトボード等を授業中に使用したり、保護者・地域の皆さんといった教員以外の方々にお手伝いいただきながら様々な人と関わる学習を行ったりしています。

来年度からの授業時数の増加は、こうした「主体的・対話的で深い学び」を実現する一つの手段なのです。これまでの下校時刻と少し変わる点があり、お子さまの活動や習い事等のご調整をお願いすることになるかもしれませんが、全国的な動きであることをご理解いただきますようお願いします。

こんなところに…「やさしい言葉」

この写真は、児童昇降口です。扉に貼ってあるポスターには、全校児童が応募した湯田地区社会福祉協議会募集の「あいさつ標語」の入選作品が紹介してあります。標語を考え出した子供たちの願いが、短い言葉にたくさん込められています。こうして、常に目にすることで、子供たちのあいさつの輪が大きく広がることを期待しています。

もうすぐ、来年度の「あいさつ標語」の募集が始まります。次は、どんなやさしい言葉が紡がれるのでしょうか。